



発見!

元気な農^む山^ら漁村



むら
ディスカバー農山漁村の宝（第7回応募団体）
取組事例集

【お問い合わせ先】

中国四国農政局山口県拠点地方参事官室
〒753-0088 山口県山口市中原町6-16 山口地方合同庁舎1号館3階
☎083-922-5200

中国四国農政局農村振興部農村計画課
〒700-8532 岡山県岡山市北区下石井1丁目4番1号
☎086-224-4511（代表）

山口県

令和3年3月
中国四国農政局

発刊にあたって

「ディスカバー農山漁村（むら）の宝」は、内閣官房及び農林水産省が、「強い農林水産業」「美しく活力ある農山漁村」の実現のため、農山漁村の有するポテンシャルを引き出すことにより地域の活性化、所得向上に取り組んでいる優良な事例を選定し、全国への発信を通じて他地域への横展開を図るもので、今年度（令和2年度）で7回目となります。

中国四国農政局管内では144件の応募があり、「ディスカバー農山漁村（むら）の宝」として6地区が選定されました。

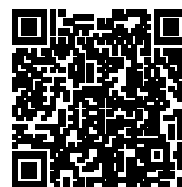
さらに、中国四国農政局では、応募のあった地区の中から、他の地域の参考となるような優良な事例を、「中国四国農政局『ディスカバー農山漁村（むら）の宝』」として13地区と2名を選定するとともに、今後の活躍が期待できる事例を、「奨励賞」として12地区と2名を選定しました。

また、今年度応募のあった地区の事例について、その地域での「農山漁村（むら）の宝」として広く情報発信するとともに、身近な地域の取組として紹介するため、各県別の事例集を作成しました。

各地域において参考にしていただき、農山漁村や農林漁業への関心を深めていただくきっかけになれば幸いです。

※「ディスカバー農山漁村（むら）の宝」の情報は、中国四国農政局のホームページ（下記URL）をご覧ください。

<http://www.maff.go.jp/chushi/nouson/kaseika/discover.html>



令和3年3月

中国四国農政局農村振興部

目 次

○ 「ディスカバー農山漁村(むら)の宝」について	1
○ 応募団体一覧	6
○ 応募団体位置図	7
○ 応募団体の取組事例	8

「ディスカバー農山漁村（むら）の宝」について

「ディスカバー農山漁村（むら）の宝」とは、「強い農林水産業」、「美しく活力ある農山漁村」の実現に向けて、農山漁村の有するポテンシャルを引き出すことにより地域の活性化、所得向上に取り組んでいる優良事例を選定し、全国へ発信するものです。

1. 「ディスカバー農山漁村（むら）の宝」（第7回選定）

今回の「ディスカバー農山漁村（むら）の宝」（第7回選定）では、令和2年7月1日から9月4日までに、農山漁村活性化の取組として全国から794件（管内からは144件）の応募があり、11月4日に総理大臣官邸で開催された「ディスカバー農山漁村（むら）の宝」（第7回選定）有識者懇談会において団体部門（コミュニティ部門及びビジネス部門）として28地区と個人部門として4名が選定されました。

中国四国農政局管内からは優良事例として6地区が選定され、その中からコミュニティ部門の部門賞（準グランプリ）に山口県山口市の「株式会社秋川牧園と飼料用米生産者グループ」、ビジネス部門の部門賞（準グランプリ）に徳島県阿波市の「GOTTSO阿波」が選定されました。



「ディスカバー農山漁村（むら）の宝」ロゴマーク

2. 中国四国農政局「ディスカバー農山漁村（むら）の宝」

中国四国農政局では、管内で応募のあった144件の中から、他地域の参考となるような優れた地域活性化の事例を「中国四国農政局『ディスカバー農山漁村（むら）の宝』」として広く発信することとし、令和2年10月26日、中国四国農政局において選定委員会を開催し、13地区と2名を選定しました。

また、今後の活躍が期待できる事例を奨励賞として12地区と2名を選定しました。



中国四国農政局「ディスカバー農山漁村（むら）の宝」
選定地区オリジナルロゴマーク

3. 選定地区（管内）の概要

（1）全国版選定地区（ディスカバー農山漁村（むら）の宝（第7回選定））

株式会社ウッドスタイル（島根県松江市）

- 丸い竹を平らにする事により「新素材」として新しいマーケットを広げ、家具や建材等に竹を有効活用。
- 竹の伐採・利用により、放置竹林の解消や石見銀山世界遺産センターの展示什器の新設など地域に貢献。



地元小学生とともに石見銀山の竹の伐採

裳掛地区コミュニティ協議会（岡山県瀬戸内市）

- 移住者の受入による地域人口の維持を主眼に、情報発信や空き家等の整備、外部との交流機会を創出。
- 地域独自の寺子屋「もかけてらこや」の開設や、小学校支援地域本部の設置を通じた支援なども実施。



移住者受入のための空き家を整備

株式会社秋川牧園と飼料用米生産者グループ（山口県山口市）

準グランプリ受賞地区

- 6次産業化を達成している畜産業者が、近隣農家とともに鶏に食べさせる餌まで作る、7次産業化の取組。
- 飼料用米の生産・活用により、耕作放棄地の解消や環境・景観の保全、地域資源を活用した循環型農業の実現に貢献。



本取組による飼料用米を給餌する
国産鶏種「丹精國鶏」

GOTTSO阿波（徳島県阿波市）

準グランプリ受賞地区

- 地域のPRや食育、農業・野菜の魅力を発信し、所得向上や農業人口の増加を目指して活動。
- 地元ブランド野菜を使った地元幼稚園・小学校での食育や、オリンピックでの納品を目指したグローバルGAPの取得を実施。



2020年度のPRポスター

木沢林業研究会（徳島県那賀町）

- シカに食害されないミツマタに着目し、生産から出荷・商品開発まで取り組み、限界集落の活力を取り戻す。
- ミツマタの新商品の開発・流通に成功し、ミツマタを那賀町の名産品としてPRする場が増加。



ミツマタの白皮剥ぎ作業

愛媛県立土居高等学校情報科学部（愛媛県四国中央市）

- 地元の日本3大原産地の一つである五葉松の盆栽農家が存続の危機に直面しており、存続に向けた取組を実施。
- インバウンド盆栽ツアーの実施や、コロナ禍におけるオンラインの活用により地方創生に貢献。



インバウンド盆栽ツアープランの
商品化

(2) 地方版選定地区 (中国四国農政局「ディスカバー農山漁村(むら)の宝」)

株式会社 センコースクールファーム鳥取 (鳥取県湯梨浜町)

- 梨の木のオーナーを当初は社員を対象に募集していたが、令和元年から一般募集も開始。
- 梨の管理はプロジェクトが行い、オーナーへ生育状況をネットで配信。
- 収穫時期には収穫体験をしてもらい、収穫した梨は自宅に届け、賞味してもらおう。
- 希望に応じて青果から梨ジュースや梨ドレッシング等の加工品への交換も可能。



梨オーナーの収穫体験

里山照らし隊 (島根県雲南市)

- 独居高齢者宅や離農者が所有する田畑の草刈りを、応援者とともにを行い農村景観を保全。
- 田植えや稲刈りなどの農業体験や、竹林などの自然環境を生かした子供達のアートイベントも、民間団体等との協働事業として取り組む。
- 森林資源を活かす新しい技術として開発された、木炭を原料にした炭の警電器の製造・開発の社会実験を開始。



草刈り作業後の記念撮影

有限会社 木村有機農園 (島根県雲南市)

- 平成11年より環境保全型農業に取り組み、中山間の環境を活かした農業、有機栽培等に取り組む。
- 新規需要米で高アミロース米を栽培し、100%米粉麺「田守り麺」を製造。製造特許も取得。販路拡大にも取り組む。
- 農家レストランと産直を2店舗開設。
- 島根県立農林大学校のサテライト校として農業体験実習や視察研修を受け入れている。



産直市「よってごしな菜」

植田 輝義 (岡山県岡山市)

- 全身黄色を身にまとい、自称黄ニラ&岡パク大使として、メディア(TV、ラジオ等)に出演し、産地のPRに取り組む。
- 黄ニラ&パクチー取り扱い飲食店増加計画やイベント等を実施。
- 地産地消や学校給食への取組、支援学校、ケアハウス等と連携を強化し活動を展開。
- 個人事業主から農業生産法人(株式会社アーチファーム)を設立。設立直後、西日本豪雨で被災したが、壊滅状態から復興。



全身黄色！自称黄ニラ&岡パク大使として活動

日生町漁業協同組合 (岡山県備前市)

- 毎年、アマモの繁殖期に花枝採取～保管(葉や莖を海中で腐らせる)～10月頃種を選別し播種する取組を継続。
- アマモ再生活動は、日生藻場造成推進協議会(H21設立)124名で活動。
- 地元の小中学生や高校生、消費者団体との連携による体験活動を実施。
- 平成28年に「全国アマモサミット in 備前」を当地で開催。



日生藻場造成推進協議会のメンバー

菅 秀和（広島県尾道市）

- 営業活動を兼ねたブランディングの手段として小売り店や飲食店にワークショップやセミナー企画を提案。
- コロナ禍を踏まえ、ネット型農業学校の講師を受け、就農希望者へ自身の経験を通して、考え方や方法論を伝える。
- 規模拡大時のインシャルコストの問題を解消するために、レモンを使った商品開発や業態開発を飲食店や外食企業に提案。
- 微生物資材を多用した土作り等に取り組む。



観光複合施設でマルシェ企画提案

阿知須まち開発株式会社（山口県山口市）

- 地産地消パンの開発プロジェクトを企画。山口県オリジナル野菜を使用した、「はなっこりーの花パン」をはなっこりー生産者・養蜂家・パン職人・道の駅駅長の女性4人が中心となり開発した。
- 東京からリターンした若手女性和菓子職人と連携し、道の駅オリジナルの阿知須饅頭を共同開発。
- 地域の加工者や生産者の交流支援を実施。



開発した「はなっこりーの花パン」

萩酒米みがき協同組合（山口県萩市）

- 「酒米生産、とう精、醸造」の全ての工程を組合で行う、「オール萩阿武」ブランドの酒造りに取り組む。
- 「田植え、稲刈り体験」のほか、地酒と地元食材で作った料理で消費者と交流するイベント『やっぱ地酒でnight』を開催。
- 高品質米生産に向けて統一した栽培基準を作り、年3回、「生産者、酒造会社、JA、行政」で生育状況の確認を実施。



酒米生産から醸造まで「オール萩阿武」ブランドのお酒

農事組合法人 ウエスト・いかち（山口県柳井市）

- 共同活動により農地や農業用施設を維持管理し、大型農業機械の導入により大規模で効率的な営農を展開。
- 農産物の加工・販売により高齢者や女性の就労環境の改善と県内女性起業ネットワークへの参加。
- 大学生のファームステイを受け入れ、都市農村交流に取り組む。



女性部による農産物の加工・販売

かみかつ棚田未来づくり協議会（徳島県上勝町）

- 棚田資源を活用した「棚田50の冒険」の冊子の制作に取り組む。
- 4つの棚田地域のお米をブレンドした棚田アイスを開発。「棚田アイス・ウェブ試食交流会」を開催予定。
- 「ウェブ棚田談議所」を開催。「ナイトツーリズム」「電動キックボード」等をテーマにウェブで交流。
- 新型コロナウイルス感染症の影響により抜本的に活動方法を転換。



棚田アイス

塩飽部隊（香川県丸亀市）

- 幻の唐辛子「香川本鷹」の生育過程の実地体験を通じ、香川本鷹レシピ集を作成、香川本鷹カレーを開発。
- 離島で初めて竹林伐採を実施し、カブト虫育成のための場所を整備。また、地元養護学校から提供された花の苗を休耕田に植栽し、フェリー乗り場から島の中心部までフラワーロードを形成。
- 県内在住外国人有志が集合し、島民の生活体験を通じ、手島プロモーションビデオを作成。
- 2019年春には2000kmを渡る蝶「アサギマダラ」が好物のフジバカマを植栽。
- 外国人 You-Tuber による手島の動画配信中。



島民と京大生による竹林伐採

松山東雲短期大学しののめベジガール（愛媛県松山市）

- 愛媛県産品を使用した朝食レシピの考案。カゴメ(株)と連携した野菜スムージー・野菜スープを考案。また、野菜を使用したベジスイーツを開発。
- マルシェ等に出店し、野菜スープやベジスイーツの販売を通して食育に取り組む。
- 小学生の親子を対象に、大豆の播種から収穫の農業体験と、収穫した枝豆を使用したオリジナルレシピの調理を実施。



カゴメ(株)イベントで野菜・朝食摂取PR

愛媛県立丹原高等学校園芸科学科 GAP 班（愛媛県西条市）

- GAP 認証の取得に取り組む、審査に必要な書類については生徒自ら作成。GAP 認証に係る審査は公開し、取組の発信を行った。
- GAP 認証取得による取引拡大と当校の PR のため、台湾への輸出に取り組む、生徒 20 名による台湾でのプロモーション販売を行った。



GAP 審査(現地調査)

愛媛県立伊予農業高等学校生活科学科食物班（愛媛県伊予市）

- びわ葉パウンドケーキ・ソラマメカレー・伊予風土パスタ等地域食材を使用したレシピの開発。
- 農業の授業で野菜について学習していることから、地元農家から野菜を提供してもらい、子ども食堂で料理を提供。
- 他校へも地域食材を使用したレシピを提供。海外からの視察を受け入れ、地域食材を使用した料理の試食を行う。



子供食堂への参加
—地元農家との連携—

沢渡茶生産組合（高知県仁淀川町）

- 「互いに助け合ってお茶づくりを守る」との思いから「ブレンドからブランドへ」を合い言葉に、荒茶の生産に加え、仕上茶（沢渡茶）も販売。
- 消費者を対象にした茶摘み体験や次世代を担う小学生等に出前授業を実施。
- 若手組合員が(株)ピバ沢渡を設立し、仕上茶、お茶を活用したスイーツを販売。スイーツは香港へ輸出。

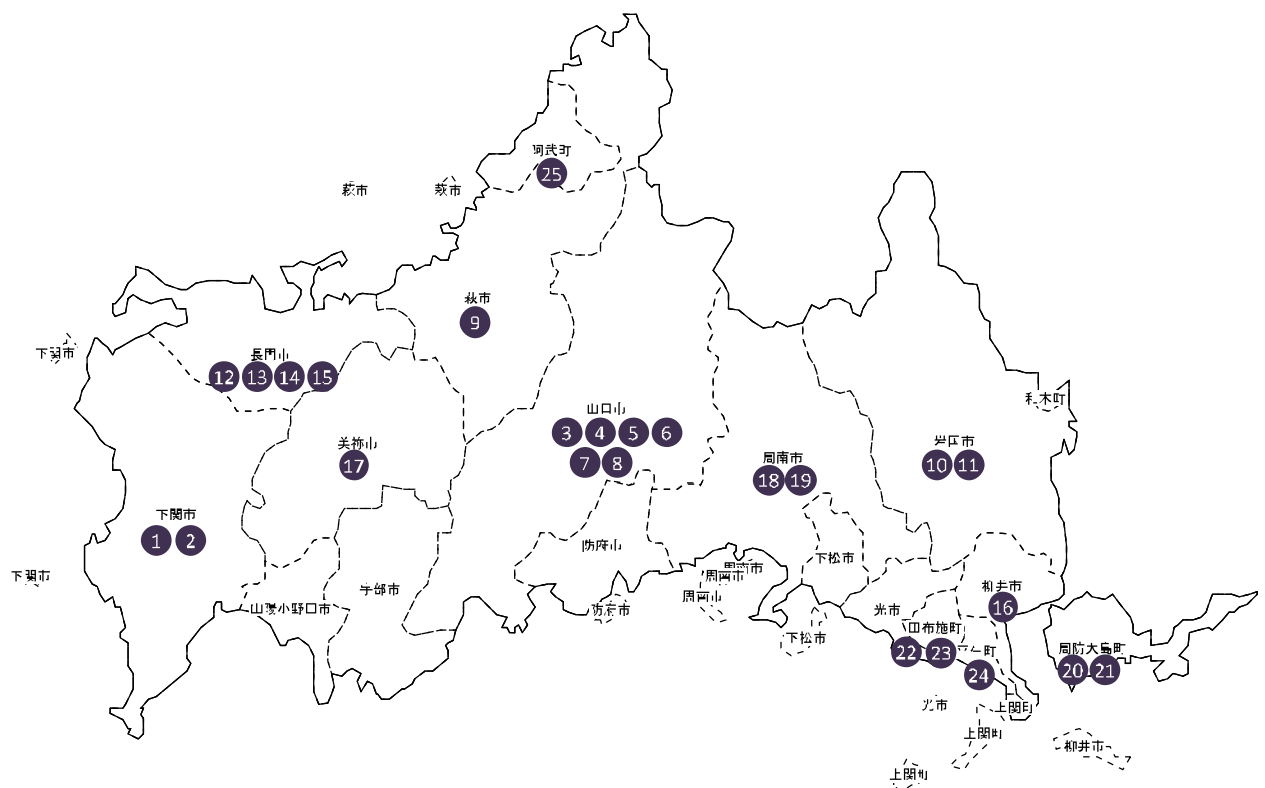


お茶摘み体験ツアー

「ディスカバー農山漁村(むら)の宝」(第7回選定) 応募団体 一覧 (山口県)

No.	選定地区	部門	市町村	団体名	該当する取り組み		
①		ビジネス	下関市	静食品株式会社	鳥獣被害防止	ジビエ	6次産業化
②	奨励賞	コミュニティ	下関市	有限会社司ガーデン	6次産業化	食育・教育	環境保全・ 景観保全
③		コミュニティ	山口市	阿知須まち開発株式会社	6次産業化	企業との連携	女性の活躍
④		コミュニティ	山口市	吉敷畑集落協定	環境保全・ 景観保全	—	—
⑤		コミュニティ	山口市	【準グランプリ受賞】 株式会社秋川牧園と飼料用米生産者グループ	環境保全・ 景観保全	輸出	循環型農業(農 業版サーキュ ラーエコノミー)
⑥		ビジネス	山口市	株式会社 木原製作所	6次産業化	企業との連携	教育機関との 連携
⑦		ビジネス	山口市	合同会社JINRI	6次産業化	—	—
⑧		コミュニティ	山口市	農事組合法人 神友会	農泊	インバウンド	農林漁業、 農村文化体験
⑨		ビジネス	萩市	萩酒米みがき協同組合	企業との連携	6次産業化	—
⑩		個人	岩国市	梅川 仁樹	企業との連携	伝統の継承	移住・定住
⑪	奨励賞	ビジネス	岩国市	FAM'Sキッチンいわくに	食育・教育	その他(農業者の 所得向上と農村と 都市の交流)	—
⑫		ビジネス	長門市	株式会社 SD-WORLD	農村文化体験	ジビエ	雇用
⑬		ビジネス	長門市	株式会社 63Dnet	雇用	6次産業化	輸出
⑭		コミュニティ	長門市	特定非営利活動法人 ゆうゆうグリーン 依山	農泊	農林漁業、 農村文化体験	農福連携
⑮		コミュニティ	長門市	特定非営利活動法人 ゆや棚田景観保 存会	環境保全・ 景観保全	食育・教育	6次産業化
⑯		コミュニティ	柳井市	農事組合法人 ウエスト・いから	農林漁業、 農村文化体験	景観保全・ 景観保全	6次産業化
⑰		コミュニティ	美祢市	農事組合法人ほんごうファーム	景観保全・ 景観保全	雇用	食育・教育
⑱		コミュニティ	周南市	八代南土地改良区	景観保全・ 景観保全	伝統の継承	6次産業化
⑲		ビジネス	周南市	有限会社福田フルーツパーク	農林漁業、 農村文化体験	6次産業化	—
⑳	奨励賞	個人	周防大島町	角井 雅之	農林漁業、 農村文化体験	—	—
㉑		コミュニティ	周防大島町	周防大島町体験交流型観光推進協議 会	農泊	農林漁業、 農村文化体験	食育・教育
㉒		ビジネス	田布施町	新鮮田布施	農林漁業、 農村文化体験	移住・定住	6次産業化
㉓		コミュニティ	田布施町	山口県立田布施農工高等学校	食育・教育	その他(コロナに 対応した子ども 食堂の運営)	—
㉔		個人	平生町	柳井 さつき	食育・教育	企業との連携	教育機関との 連携
㉕		コミュニティ	阿武町	農事組合法人 木与なぎさファーム	農林漁業、 農村文化体験	環境保全・ 景観保全	食育・教育

応募団体位置図（山口県）



1

しものせき
山口県下関市

鳥獣被害防止

ジビエ

6次産業化

しずかしよくひん

静食品株式会社

～ 長州ジビエを日本一のジビエブランドに！ ～



長州ジビエのくんせいとウインナー



長州ジビエ紹介ポスター

平成30年維新150周年記念
下関ブランド認定証

経緯

- 獣害による農作物の被害が大きくなり、その防止のため、猟友会が駆除にあたったが、処理施設がなく大半が廃棄。
- 平成25年4月より、下関市中山間地域ジビエ有効活用拠点「みのりの丘ジビエセンター」の指定管理業者に指定され、平成28年4月より指定管理2期目。

取組内容

- ジビエセンター開設と同時に指定管理者としてイノシシ・シカの処理を開始。
- 施設で解体したジビエを自社で食肉加工し、ウインナー等加工品を製造販売。またシカ肉の肉醬など新たな利用法を模索。
- ジビエのブランド化による販路拡大を目指し、ポスターによる啓発や、地元をはじめ、首都圏での販売促進を強化。

活動の効果

- センターに持ち込めば処理してくれるという猟友会の信頼を獲得。センターでの鹿、猪の処理頭数は、552頭から679頭に増加(H25→R1)。
- 積極的なPR活動により、ジビエに対する評価が高まり販売も好調に推移。食肉・加工品の売上は、577万円から1,500万円に増加し、販売先も20件から110件へ増加(H25 → R1)。

応募団体からのアピール・メッセージ

長州ジビエのブランドを広く浸透させるとともに、本当に美味しいオリジナル製品の開発を進め、本州最西端のジビエとして、広くアピールしていきます。

URL: <http://shizuka.jp/index.html>

下関市椋木町三丁目13番18号 Tel: 083-231-4734

つかさ

有限会社司ガーデン

～ハロカぼで、耕作放棄地解消と地域活性化！！～



イベント会場でのランタン作り



加工品開発「山口グツと産品登録」

経緯

- 地元の景色が、荒廃農地の増加などでどんどん寂しくなる中、花農家として花の販売額が若年層を中心に減少している現状に危機感を持った。
- 花農家ができることとして、観賞用かぼちゃの活用を思い付き、実践していく中で、いろいろな取組が広がってきた。

取組内容

- ハロウィンかぼちゃを活用し、荒廃農地の解消や、若年層への花の教育(花育)にも対応していく中で、様々なイベントや新たな加工品の開発、販売を行うことができた。
- コロナ感染症の影響で生花の販売が大きく減少した際、ドライフラワーなどの加工品に仕上げ、新規に開設した直売所で販売を開始したほか、ジャパネットたかたのラジオショッピングなどで、販路拡大を行った。

活動の効果

- 観賞用かぼちゃを使用したランタンづくりを中心に、コンテストや餅まきなどのイベントや学校での花育など取組を拡げ、地域の高校生発案のイベントプランの全国表彰(後日、市の支援でライトアップイベントを開催)や、焼酎・珈琲・お茶・餅まき用餅など、様々な加工品の開発など、新たな取組が次々と生まれてきた。
- 観賞用かぼちゃの生産を、主に地域の若手農業者が担うことで、荒廃農地の解消の取組が進んだ。

応募団体からのアピール・メッセージ

観賞用かぼちゃの取組を継続し、若者の地域への就農に結び付けていき、荒廃農地の発生を食い止め、魅力ある地域の再生を図っていきたい。

3

やまぐち
山口県山口市

6次産業化

企業との連携

女性の活躍

あじす
阿知須まち開発株式会社

～道の駅が基点となり地域の魅力を掘起こす！～



開発した「はなっこりーの花パン」



地域の生産者と加工者とのマッチング会

経緯

- 当道の駅周辺地域は、県内有数の農業地帯で農産物資源が豊富にあるにも関わらず、加工の多様性が低く、6次産業化や農商工連携などの取組みを強化する余地があった。
- 地元の加工者と共に商品開発する支援体制を構築することにより、加工の多様性を促すとともに道の駅オリジナル商品の増加を図る。

取組内容

- 地産地消パンの開発プロジェクトを企画。山口県オリジナル野菜を使用した、「はなっこりーの花パン」をはなっこりー生産者・養蜂家・パン職人・道の駅駅長の女性4人が中心となり開発した。
- 東京からUターンした若手女性和菓子職人と連携し、道の駅オリジナルの阿知須饅頭を共同開発。
- 地域の加工者や生産者の交流支援を実施。

活動の効果

- 地産地消パンは、平成30年のスタート時から売上が約3倍以上伸びている。
- 阿知須饅頭は、販売個数が約12万個を突破し、道の駅で最も人気のお土産菓子として成長している。
- 加工品の多様化が進み、スタート時から売上は約10倍以上伸びている。

応募団体からのアピール・メッセージ

地域資源を活用し、地元生産者と「絆(信頼関係)」を築き、商品開発を進めてきた。今後も道の駅が基点となり地域の魅力を伝えるとともに、商品開発や地域の問題解決、魅力創造に貢献していきたい。

URL: <https://kiraraajisu.jp/> 山口市山口市阿知須10509-88 Tel: 0836-66-1001

よきはた
吉敷畑集落協定

～ 棚田とシバザクラの景観で地域の魅力を発信 ～



美しく保たれた農地



集落ぐるみでシバザクラの植栽

経緯

- 700枚以上あった棚田をほ場整備で約140枚にしたが、平地に比べ法面が多く、作業負担も大きかった。
- 高齢化が進行する中、水路の修繕や長大な法面の草刈りが保全活動の大きな課題であったため、地域で一体となり、棚田での農業を支えるため、集落協定として活動を始めた。

取組内容

- 農業者だけでなく、非農家も集落協定に参加。集落ぐるみの共同取組活動で、農道、水路の維持管理、鳥獣害防止柵の設置等実施。
- 法面管理の省力化のため、農地の法面にシバザクラを植栽。「やまぐち棚田20選」である吉敷畑棚田とシバザクラの景観形成の活動を通して、地域の魅力を発信し、交流人口の増加による地域活性化を目指す。

活動の効果

- 地域ぐるみの農地保全活動により、耕作放棄地の発生を防ぐとともに、農業機械や防除の共同化にも取り組むことでコスト削減にも繋がった。
- シバザクラの植栽などの取組で、良好な集落環境が保たれ、交流人口の増加や、地域の伝統的な祭りの維持・継承にも一役買っている。

応募団体からのアピール・メッセージ

先祖代々から受け継いだ棚田は、集落の自慢であり、誇りである。今後も地域住民が一体となって、農業や農村環境に親しみながら、地域を守る心を育てていきたい。

山口市吉敷505 Tel:083-924-7925

5

やまぐち

山口県山口市

環境保全・
景観保全

輸出

循環型農業(農業版
サーキュラーエコノミー)

あきかわぼくえん

《準グランプリ》

株式会社秋川牧園と飼料用米生産者グループ

～エサから作る、1+1+2+3=7次産業化～



年2回実施する、飼料用米検討視察会の様子



平成28年に完成した飼料用米保管タンク350t×2基

経緯

- 外国産飼料が大勢を占める中、安心安全な国産飼料の自給を目指して、平成21年、グループによる飼料用米栽培の取組をスタート。
- 当初、農家の賛同を得られるかは未知数だったが、専用品種モミロマンの力強さに表情が一変。農家の強いモチベーションに支えられ、取組は徐々に広がっていった。

取組内容

- 地元農家と飼料用米生産のネットワークを形成。米農家の技術を活用しつつ、グループで行う視察会を通じて栽培技術の向上と生産意欲を拡大。耕作放棄地を復活。
- 多収専用品種の飼料用米を給餌した鶏の堆肥を飼料用米の栽培圃場に投与し、理想的な循環型農業を実現。
- 飼料用米多収日本一コンテストへの応募。グループから平成29年の農林水産大臣賞(日本一)受賞者を輩出。

活動の効果

- 主食用米の生産調整により落ち込んでいた生産意欲を飼料用米の生産に取り組むことにより解消。生産者が互いに切磋琢磨することにより農家のモチベーションと技術が結実し、天候不順に悩まされた令和元年産においても高反収を維持。
- 令和2年、飼料用米栽培面積は前年を上回り134haを達成。耕作放棄地の復活にも取組み農地の保全、食料自給率の向上に貢献している。
- 畜産事業者主導の飼料用米生産グループは珍しく、全国各地から視察団が来訪。

応募団体からのアピール・メッセージ

6次産業化に飼料用米生産の「1」を加えた7次産業化の取組を更に進め、飼料の自給率向上に向けて、農家相互の技術継承の取組を継続し、更なる生産拡大に努めたい。

URL:<https://www.akikawabokuen.com/>

山口市仁保下郷10317

Tel: 083-929-0630

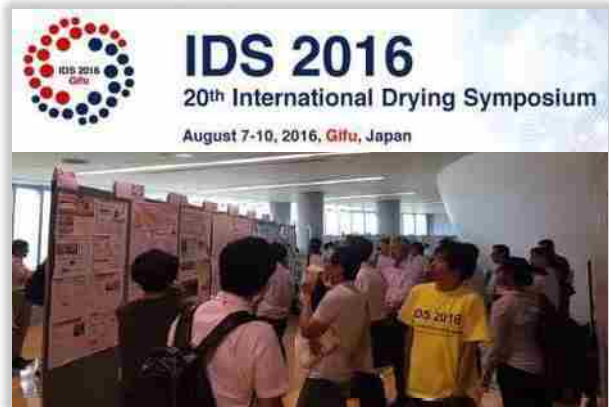
きはらせいさくしょ

株式会社 木原製作所

～国内初・乾物プロジェクトで“地域”創生！～



開発商品の合同販促体験



国際乾燥学会で事例発表

経緯

- 平成22年、山口市が新たな地域産業戦略の構想を開始したことを受け「乾燥技術」を地域資源として活用し、複数団体とのドライフード商品開発と圏域ブランドの構築を市に提案。
- 平成23年、乾燥食品の開発販売を軸とした国内初の地域振興事業「山口から“Kanbutsu”を発信。」プロジェクトが総務省で採択。

取組内容

- “地域創生”として企画立案、乾燥技術提供、試作品開発、パッケージデザイン提案、保存・販売アドバイス、商標登録実務までを無償で行い、市内事業者の商品開発をサポート。
- 事業者とともに、ドライフルーツ、漢方薬原料、和紙、パン、花のふりかけ、カレーなど、従来の乾物のイメージを覆す多彩な利用方法と商品を開発。

活動の効果

- サポートした商品は、多様なメディアに取り上げられ、山口市の地域振興の取組や少量多品目の1次産品の認知度を向上させ、多様な産官学の連携を生み出した。
- 本取組をきっかけとして、平成24年に農林水産大臣から機械メーカーでは全国初となる「ボランティアプランナー」任命、平成27年皇太子殿下御視察、「国際乾燥学会（世界42か国300人の研究者が参加）」では本事業が注目を集めた。平成29年「はばたく中小企業・小規模事業者300社」選出。県・露友好協定をきっかけに新商品を展開。

応募団体からのアピール・メッセージ

弊社は乾燥機メーカーの枠にとどまることなく、乾燥加工を通じた6次産業化商品開発支援に取り組むことで、地域産業の振興に貢献することを目指しております。ご来社も大歓迎ですので、お気軽にお声かけください。

URL: <http://www.kiharaworks.com/>

山口市秋穂西3106-1

Tel: 083-984-2211

じんり
合同会社JINRI

～捨てられる野菜に新たな価値を～



おしゃれなデザインで人気「萩野菜ピクルス」



ピクルスのノウハウが学べる「萩ピクルスアカデミー」

経緯

- 地元、山口県萩市の農業をどうにかしたいと思いからUターン。地元野菜を「萩野菜」と名付け、農家から野菜を買取り野菜の卸売をする個人事業「JINRI」を起業
- その中で農家から規格外野菜をどうにかしてほしいと相談を受け、見た目に左右されない加工品「ピクルス」の製造に着手。

取組内容

- 農家の収入向上に寄与するため、農家から規格外野菜を買取り、デザインを重視した「萩野菜ピクルス」の製造、販売を実施。
- 萩野菜の更なる活用、消費拡大に向け、約80席の大型カフェを新設し、「萩ピクルス」に加えピクルス入りサンドイッチを製造販売。
- 「ピクルスアカデミー」を開校し、ピクルス製造における知識や技術、マーケティングやデザイン等のノウハウを提供。

活動の効果

- 規格外野菜の買い取ることで、農家収入の向上に貢献している。
- こだわりのピクルスやピクルス入りサンドイッチなど、付加価値の高い加工品販売が所得向上に繋がったほか、カフェの設立は、地域の雇用の創出にも寄与している。
- 「ピクルスアカデミー」は開設から一年で約260名が受講。ピクルス製造からカフェの運営まで、様々なノウハウを提供し、ピクルスの普及・啓発に貢献している。

応募団体からのアピール・メッセージ

これからも地元経済、農業に寄与できる企業として邁進して参りたいと思います。

しんゆうかい
農事組合法人 神友会

～おもてなしの神角笑顔あふれるヤマシャクの里～



景観作物(シバザクラ)の絵文字



地域住民でおもてなし 体験・民泊

経緯

- 十種ヶ峰のふもとに位置する神角集落では、神角の自然と地域を守ることを目的として、農事組合法人「神友会」を立ち上げた。
- 集落の夢プランにより当該集落における農業や暮らしの良さを若い世代に伝承するため、学生や子供達との交流など様々な取組を実践している。

取組内容

- 神友会女性部が主催する「サロン」で、集落で採れたお米や野菜を使った昼食を振る舞い、おしゃべりなどの憩いの場所を提供している。
- イギリスや中国等海外の中高生の農家民泊を実施。
- 中学生の農家民泊を実施。農作業体験、農産物の収穫や竹笛、弓矢作りなど、昔の遊び体験を行っている。

活動の効果

- 女性部が主催する「サロン」を月一回開催をしているが、高齢者は開催を心待ちにしており、一人暮らしの人も毎回参加し、地域の交流が図られている。
- インバウンドの受け入れを行い、イギリスの中学生に餅つき体験、タイからの観光客に浴衣の着付け体験、地元農産物を使った料理を堪能してもらった。言葉が通じず身振り手振りでのコミュニケーションではあったが、楽しい時間を過ごすことができた。

応募団体からのアピール・メッセージ

大学生の農業体験学習、中学生や高校生の農家民泊、都市部の子供達の田舎体験交流などを精力的に行っており、いずれは定住者が増えることを目標にしています。



はぎさかまい

萩酒米みがき協同組合

～酒蔵と農業法人の連携による6次産業化～



酒米「山田錦」

酒米生産から醸造まで
「オール萩阿武」ブランドのお酒

経緯

- 萩阿武地域の酒造会社向けの酒米「山田錦」を地元で供給するため、平成27年から本格栽培を開始。
- 当初は他県でとう精を行っていたが、運搬コスト等の課題やコンタミの不安を解消するため、地元の6酒造会社と11集落営農法人(現在は14法人)で組合を設立し、平成30年3月、地元にとう精工場を整備。

取組内容

- 「酒米生産、とう精、醸造」の全ての工程を組合で行う、「オール萩阿武」ブランドの酒造りに取り組む。
- 「田植え、稲刈り体験」のほか、地酒と地元食材で作った料理で消費者と交流するイベント『やっぱ地酒でnight』を開催。
- 高品質米生産に向けて統一した栽培基準を作り、年3回、「生産者、酒造会社、JA、行政」で生育状況の確認を実施。

活動の効果

- 集落営農法人と酒造会社が一体となって取り組むことで、「オール萩阿武のお酒」としてブランド力強化が図られた。
- 主食用米に比べて収益性が高い酒米を契約栽培することで、農家所得の向上に寄与している。
- 冬場に仕事が少ない集落営農法人の従業員を、とう精作業に従事させるほか、蔵人として酒造会社で働くことで、雇用の場の確保と労働力不足解消に繋がっている。

応募団体からのアピール・メッセージ

「オール萩阿武」による生産者の顔が見える酒づくりで、地域が一体となって日本一の酒米産地、日本一の地酒産地にしていきたい。

萩市大字吉部下12226番地1 Tel: 08388-6-0570

10

いわくに
山口県岩国市

企業との連携

伝統の継承

移住・定住

うめかわ ひとき
梅川 仁樹

～わさびの産地化と就農支援により地域に活力～



(農産物直売所での「わさび」販売)



(山口県農業士協会による研修)

経緯

- 就農後、地域の特性や資源をフル活用するため、畑わさびの生産に取り組んでいたが、従来の慣行栽培から新たな栽培技術を導入することにより経営の安定化を図る。
- 移住・定住、新規就農者の支援を目的とした「新規就農サポーターズ」の設立に貢献。
- 地域を活性化するには、人の問題や農地の問題、高齢化による伝統芸能の継承など様々な問題が山積していることから地域の世話役活動に積極的に参加。

取組内容

- 山口県農林総合技術センターと連携し、わさびの栽培期間を大幅に見直した超促成栽培を検証し、収益性の高い新技術を確立。
- わさび生産者の先輩として、県内全域における移住・定住、新規就農者の支援に取り組み、都市部などからの移住活動に協力。
- 地域の調整役として人・農地プラン等の話し合いに積極的に参加し、地域住民と課題や問題解決の共有を図る。
- 向峠地区の伝統芸能である神楽を次世代に継承するため、向峠神楽保存会に所属し、地元の小学生を指導。

活動の効果

- わさびの超促成栽培により1年1作を実現するとともに、わさびの全ての部分について有効利用することにより高い収益性を確保。わさび栽培を目指す農業者が増加している。
- 積極的に新規就農者の研修を受け入れ、栽培技術・経営学の習得支援を実施。また、就農した地域で生活する上でのアドバイス等を行うなどにより、定着率が向上した。
- 長年の世話役活動で把握している情報等を共有し、地域の課題解決に向けた方針（人・農地プラン）の作成に寄与。
- 向峠神楽を各地で披露することにより、神楽に魅了された若者の移住に繋がっている。

応募団体(者)からのアピール・メッセージ

岩国市内の課題解決の取組を推進。わさびの産地化と新規就農者や農業参入した企業への技術継承。地域を次世代に繋ぐための定住支援など地域を活性化。

山口県岩国市錦町宇佐郷554 Tel0827-74-0755

ふあむず
FAM「Sキッチンいわくに」

～Food And Meet 岩国地域の「食と出会う場所」～



遠隔地の産物を集約する巡回トラック



採れたて新鮮な野菜たちです

経緯

○山口県東部に位置する岩国市は、約80%が山林で占められ、瀬戸内海沿岸部から1,000m超の山地まで、起伏に富んだ地形となっている。山間部は過疎、高齢化が顕著であり、地域の優良な生産物が消費者へ届けられず、農業者の所得も向上しないといった課題解決のため、販売拠点を設立。

取組内容

- 独自の集出荷システムを用いて、登録農家から出荷された農産物や加工品は店舗POSシステムと連動。生産者は10箇所の集出荷拠点に設置された端末で販売と精算の状況を確認できるほか、店舗で売れた際はリアルタイムで出荷者にメールで連絡。
- 店舗まで生産物を運べない生産者のために、巡回トラックにより集荷を実施。
- 陳列エリアを生産者に割り当て、生産者自らが創意工夫(POP掲示など)して販売を展開。

活動の効果

- 令和元年3月末現在で、オープン当初から約2倍となる生産者348名、加工製造業者48名がシステムへ登録。巡回集荷の利用も活発化しており、地域限定の希少な農産物の陳列できるようになり、農家の所得向上に寄与。
- これまで山間地に関心を示さなかった岩国市中心街の消費者、米軍岩国基地関係者(外国人)、隣接県から来客が延べ40万人超となり、開設2年目(令和元年度)に、5年後の売上目標を達成。その後も来店者数と売上が増加している。

応募団体からのアピール・メッセージ

「うまいものフェア」「ガールズマルシェ」など販売イベントのほか、野菜ソムリエを講師に招いた料理教室、手芸教室など、「食と人の交流の場」を創出していきます。

公式SNS : <https://www.facebook.com/fams.kitchen.iwakuni/>

山口県岩国市多田97番地2 Tel: 0827-44-0831

えすでいー わーるど

株式会社 SD-WORLD

～徹底的地域主義 温泉から新たな歴史を刻む～



(cool japan award 2019に選定された温泉街)



(飲食店「たべ山」の経営)

経緯

- 俵山地域は、湯治湯として知られているが、訪問客の減少や、家族経営が中心の温泉宿経営者の高齢化が顕在化してきている。
- 以前よりNPO法人が進めてきた地域活性化の取組を引き継ぐ形で、地域運営会社という形態の当社を設立し、従来の枠組みを超えた新たな活性化の取組を推進。

取組内容

- 温泉街の中の空き施設を改修し、地域の食を活用する新たな事業等により、地域に収入と雇用を確保する。
- ジビエなど地域の食材を提供する飲食店を開店させたほか、ゲストハウスやカフェ等も運営を開始し、利用者の拡大を目指す。

活動の効果

- ジビエなど地域の食材を提供する飲食店は、通常の来客のほか、温泉宿の宿泊と食事を分離する「泊食分離」の取組における食事を分担する位置づけとして運営。旅館におけるオペレーションを削減することで、今後、温泉街の担い手不足や施設の老朽化といった課題解決につなげていく。
- 今までなかったゲストハウスといった簡易宿泊施設を稼働することで、今までの訪問客と違った客層を獲得していく。

応募団体からのアピール・メッセージ

俵山温泉は、古くから抜群の泉質で湯治湯として栄えてきており、今もファンが多い。今後、地域の周遊を促して関係人口を築くことで、地域の再生につなげていく。

長門市俵山5149 Tel:0837-24-5000

ろくさんでいーねっと
株式会社 63Dnet

農業者が組織的な6次産業化で地域を活性化



地元マルシェ LaLaフラン



ながとラボ開発商品

山口県産小麦使用
海辺のパン屋 ララベーカリー

経緯

- 農業生産者が自ら共同出資し、6次産業化を目指すため、不足する施設及び開発・販売に関する専門的知識やノウハウを補完し、効率的な開発と販売を実現できる6次産業化組織として設立。
- 平成28年から運営している長門市6次産業化支援施設「ながとラボ」を継続的な事業化を行うため、63Dnetで事業を継承。

取組内容

- 地域農家や市場から農産物を集荷し、近隣の道の駅への卸売事業を展開。
- 直営店舗「LaLaフラン」で、地域農産物や加工品を販売。
- 山口県産小麦、海由来の天然酵母を使用したパンを「ララベーカリー」で販売。
- 「ながとラボ」で地域食材を活用した商品を開発。令和2年にフリーズドライ設備を導入し、今後、常温商品や備蓄食品を開発。

活動の効果

- 農産物を集荷し、道の駅等で販売。合わせて商品紹介や使用方法などを消費者に情報提供することで、農産物の消費拡大及び生産者の所得向上に繋がっている。
- 「ながとラボ」での商品化と販売を専門家が行うことで、農業生産者は生産活動に専念しながら自らの商品開発を行なえ、魅力ある農業経営モデルを確立。

応募団体からのアピール・メッセージ

「ながとラボ」の完成により、大手にしかできなかった商品を生産農家、小規模事業者が適正な製造量で商品化して旬の食材を通年販売できる魅力がある。特にフリーズドライの少量生産は全国的にも需要が見込め、小規模だからこそできる商品開発および販売に取り組む。

長門市西深川270番地10(ながとラボ) Tel:0837-22-0777

特定非営利活動法人 ゆうゆうグリーン俵山

～誇りをもって住み続けたい思う地域に！～



民泊に参加した韓国の高校生たち



デイサービスの利用者とインターン生の交流

経緯

- 温泉業の斜陽化と集落の過疎高齢化に伴い、地域活力が急激に衰退したことをきっかけに、地域の有志が中心となり、俵山グリーンツーリズム推進協議会を設立。
- 平成21年、活力ある地域作りを目指し、法人化。
- 平成30年、集落営農法人連合体、株式会社アグリベンチャー俵山へ参加。

取組内容

- 「スクールバスの運行」、「公共交通空白地有償運送」、「デイサービス事業」、「食の自立支援」など、生活で不便性を感じさせない取組を展開。
- 小中学生・高校生を対象に、民泊・農業体験を受入。30年度は、韓国・台湾の高校生、イタリアから専門学校生を受入れて交流。
- 福祉事業を始め、環境整備、産業振興、地産地消、スポーツ・文化振興・教育など活動は多岐にわたる。

活動の効果

- 地域における生活の利便性を確保する事業を展開することで、地区で生活する人達が不便性を感じることなく生活ができます。
- 都市部の小・中・高校生との民泊、農業体験や接する機会のあまりない外国人との交流を通じ、地域の活性化に手応えを感じています。

応募団体からのアピール・メッセージ

現在の事業を継続することで、生活利便性を向上し、移住者の増加などをめざします。また、ラグビーワールドカップのキャンプ地となったことを活用し、日本・世界へ俵山の良さについて情報発信し、俵山地域の活性化をめざします。

たなだ

特定非営利活動法人 ゆや棚田景観保存会

～ゆや棚田 魅せて! 教えて! 虜にさせて!～



全国棚田サミット150日前イベント:耕作放棄地再生農地へのハーブ入植



夏休み宿題お助けツアー:昆虫とれ～る

経緯

- 全国棚田100選の選定地域であるが、高齢化・過疎化が進行し、耕作放棄地が増え棚田景観の維持・保全が困難。
- 長門市棚田保護条例が制定され、地域での6次産業化やグリーンツーリズムへの気運の高まりをきっかけに設立。棚田保全計画を策定し、棚田景観の保全・継承に取り組む。

取組内容

- 耕作放棄地を無償で借り受け、さつま芋や景観作物の植付、ハーブ等のお花田計画など、棚田の保全活動を実施。また、収穫した農産物の米粉やハーブを使った加工食品を開発。
- 小中学生を対象とした花香づくり・昆虫トレール教室、いも掘り体験の受入など、体験教室を開催。

活動の効果

- 先人が守ってきた、棚田の景観保全を地域住民参加により実施することで、地元に対する愛着心や地域の和が生まれた。
- 棚田や地域資源を活用したイベントを行い、都市住民と農村の交流を促進する事で、地域の活性化が図られた。
- 交流カフェの開設で、高齢者が集まれる場所として、健康福祉へ寄与。

応募団体からのアピール・メッセージ

平成26年度からは、農林水産省の「美しい農村再生支援事業」を活用した近隣大学との学域連携による地域課題の洗い出しや、ブランド化の更なる促進に向けた活動展開を行い、美しい自然環境を利用した都市農村交流の拠点として、地域版「まち・ひと・しごと創生」のモデルとなるべく鋭意努力している。

URL: <http://member.hot-cha.tv/~yuya-tanada/top.html>

長門市油谷後畑1766番地 Tel: 事務局0837-32-2056

16

やない

山口県柳井市

農林漁業、農
村文化体験環境保全・
景観保全

6次産業化



農事組合法人 ウエスト・いかち

～法人と地元でつくる里づくり～



景観作物(シバザクラ)の作付け



女性部による農産物の加工・販売



大学生のファームステイ

経緯

- 農業従事者の高齢化と担い手不足により、個別経営体による農地の集積・維持が困難であった。
- 平成16年の圃場整備事業実施と合わせ集落営農の法人化を検討。
- 平成18年に地域農地の保全を目的として「農事組合法人ウエスト・いかち」を設立。

取組内容

- 共同活動により農地や農業用施設を維持管理し、大型農業機械の導入により大規模で効率的な営農を展開。
- 農産物の加工・販売により高齢者や女性の就労環境の改善と県内女性起業ネットワークへの参加。
- 大学生のファームステイを受け入れ、都市農村交流に取り組む。

活動の効果

- シバザクラによる農村集落の景観維持は、地域内の環境保全と都市と農村の交流に寄与し、地域の活性化と法人経営の安定に繋がっている。
- 女性を中心とした四つ葉グループは、「やまぐち農山漁村女性起業ネットワーク」認定商品を生み出し、地元農産物を使った加工品は好評を得ている。
- 農産物や加工品の販売を通じ、都市農村交流と地域活性化が図られている。
- 大学生のファームステイの受け入れと、学園祭へ加工品の提供を行うことにより、都市農村交流と伊陸地域のPRに繋がっている。

応募団体からのアピール・メッセージ

大学生のファームステイ受入をきっかけとした都市部との交流は、地域の活性化に繋がりが、伊陸の美味しい農産物のPRにも繋がりました。また、毎年1月に開催している「キャベツ祭り」では、旬のキャベツを始めとした伊陸の冬野菜、手作りの大豆コロッケ、寿司、炊き込みご飯の販売、豚汁試食などが好評をいただき、多くの来訪者で大盛況となっています。皆様も是非お越しください！

URL: <http://westikachi.jp/>

柳井市伊陸7446-4

Tel:0820-26-0780

農事組合法人ほんごうファーム

～ほ場整備と法人設立を両輪に中山間地農業の振興と地域の活性化を図る～



ほ場整備地区 全景



秋吉小学校3年生のシイタケ駒打ち体験

経緯

- 地域のほ場は未整備で、大型機械の導入が困難であり、農家の高齢化が顕著となる中、農地の荒廃や鳥獣害被害の拡大など、課題が山積の状況。
- 5集落でまとめ、若者が農業に取り組みやすい環境を整備するため、ほ場整備実施と営農の受け皿として農事組合法人を設立。

取組内容

- ほ場整備を、農地バンクの活用や農事組合法人の営農の引受体制の整理により、地権者の合意を取り付けて実施。
- 農事組合法人を設立し、農業経営改善計画認定や人・農地プラン策定により、新規就農者の雇用や、食育等の取組を実施。
- 中山間地域直接支払交付金、多面的機能支払交付金の事務を5集落分まとめて取り組み、地域の農地を保全。

活動の効果

- ほ場整備の合意形成においては、徹底した議論を2年かけて行った結果、100%集積と田1枚当たり50aを基本とした大規模ほ場化が実現。
- 3名の農業大学卒の新規就農者を雇用し、水稻、麦、大豆を基本に「梨」や「りんどう」などの法人独自品目にも取り組んでおり、今後の活躍に期待。
- 冬期の営農品目としてシイタケ栽培に取り組み、これを小学生の体験学習に生かす取組とするほか、地域住民の交流の場として収穫祭を実施。

応募団体からのアピール・メッセージ

法人経営にはMVP(M ミッション(使命・目的)、V ビジョン(計画・立案)、P パッション(情熱))の精神を徹底し、活力ある法人経営に取り組んでいく決意。

やしろみなみ
八代南土地改良区

～「ツルと人・共生の里」再生構想をめざして～



八代へ渡来したナベツルの家族



県内外のボランティアと共に行うツルのねぐらづくり

経緯

- 周南市八代は、本州唯一のナベツルの渡来地（越冬地）であるが、餌場となるほ場が荒廃し、ナベツルが減少。
- ツル保護とともに地域の人々が心豊かにくらす「ツルと人・共生の里」再生構想の一環として、地域の農業を支え、ツルに優しい農業を推進するため、八代南土地改良区を中心に地域の合意を形成。

取組内容

- ほ場には、生態系保全型水路やツルの歩きやすい法面傾斜を導入し、ツルの渡来時期には工事、草刈り等を一切行わないなど、ツルの生態に最大限配慮。
- 冬期湛水、無農薬・無化学肥料、堆肥を活用した循環型農業による米の生産等、ツルの生態に配慮した営農に取り組む県内唯一の地域。
- 水辺の教室開催やツルのねぐら作り。

活動の効果

- 冬期湛水栽培、無農薬・無化学肥料、ICT活用による酒米生産支援システムなどの取り組みにより、「ツルと人に優しい安心・安全な農産物の生産」が認められ、八代産の酒米を使用した日本酒も高い評価を受けている。
- 小学校と連携し、生態系保全型水路で実施される「生きもの調査」では、きれいな水と判定されており、ツルと共に歩む農業によって豊かな自然環境が守られている。

応募団体からのアピール・メッセージ

周南市の定住促進事業を活用し、地区内外から定住する農業後継者の発掘・育成を推進し、「ツルと人に優しい安心・安全な農産物の生産」を基本に、規模拡大、品質向上、コスト削減を図り、6次産業化、女性の雇用などを視野に入れ活動していく。

ふくだ

有限会社福田フルーツパーク

～明るく 楽しく 美しい農業を目指して～



梨とぶどうの観光農園



ツリークライミング体験や外国人の農業体験

経緯

- 山口県周南市の北部に位置する須金地区は、ぶどう・梨の産地であり、40年以上続く観光農園が団地化(16戸)し、秋には県内外からの観光客で賑わいを見せている。
- 2010年、現代表に経営移譲したことを契機に、消費者ニーズや時代の変化に柔軟に対応できるよう様々な取組を開始。

取組内容

- 2006年から夏休みの自然体験宿泊イベント「いなかの学校」を実施。2日～3日の期間で小学生約30人を受入。
- 2009年から農業体験と交流のNGO団体「WWOOF」を通じ、世界中から外国人の農業体験を受け入れている。
- 2011年から自然とふれあうことを目的に、森のアーチェリー、ツリークライミングを開始。
- 2015年からバーベキューの飲食営業を開始し、最大1日150人を受入。

活動の効果

- エンターテイメントな観光農園を目指し、地域資源の発掘及び情報発信を率先して行ってきた結果、自然体験やバーベキューを目的とした来訪者が年々増加し、都市農村交流と須金地区の活性化につながっている。
- 地域全体の魅力を向上したことから、新規就農者も増加し、観光農園の園主の平均年齢が40歳代となり、観光農園の経営承継も順調に進んでいる。

応募団体からのアピール・メッセージ

エンターテイメントな観光農園をめざし、夜間のライトアップ、宿泊設備の拡大など、ナイトタイムツーリズムの充実を図るほか、隣接する観光農園との連携強化とイチゴ栽培など新たな産地の形成に取り組んでいきます。

URL: <https://www.fukuda-fp.com/>

周南市須万2780番地 Tel: 0834-86-2138

かどい まさゆき
角井 雅之

～売上1000万！暮らせる農業で産地振興～



角井 雅之



せとみ

経緯

- 神奈川県から父母の実家に帰省する度、祖父が営むみかん園で農作業を手伝う。
- 農業への憧れが就農希望へと膨らんでいくが、父の教えもあり、会社員として就職。
- 就職後も「みかん農家になりたい」との思いは変わらず、周防大島町やJA山口大島（現JA山口県周防大島統括本部）での研修を経て、平成24年4月に就農。

取組内容

- 柑橘栽培では、露地とハウスを組み合わせ、せとみ、せとかなど10数種類を栽培。
- 就農時は132aの園地でスタートし、その後、約360aへ規模を拡大。
- 凍害のリスク分散のためハウス栽培を開始し、高収益を得られる品種へ更新
- 積極的に園地を借り入れる一方、担い手確保のため新規就農者へ移譲。

活動の効果

- 農地中間管理機構等の利用により、就農時より2倍超まで耕地面積を拡大し、農業経営を通じて国土保全と安定した農産物の供給などに寄与。
- 規模拡大により、露地とハウスを組み合わせたリスク分散と高収益が見込める品種を始めとした10数種類の柑橘栽培が可能となり、就農時から約10倍に収益が向上。
- 周防大島町農業委員、山口県農業士会青年理事を務める傍ら、就農希望者に対し、樹園地の提供、技術及び経営ノウハウの伝達により、営農継続に向けた支援を実施。

応募団体(者)からのアピール・メッセージ

農家は農産物を作り、市場や加工業者に“適正な価格”で販売し、利益をあげる。普通に営農すれば利益がきちんと出る産業になれば、高度な経営感覚が求められる6次産業化を推進するより就農人口を増やせると考えている。

すおうおおしまちょう
周防大島町体験交流型観光推進協議会

～ 感動☆島体験 ～



ホームステイ先での船釣り体験

地元の魚を使った
家庭料理体験ホストファミリー
とのお別れ

経緯

○町の基幹産業である農業や漁業などの1次産業と観光交流を結びつけた新たな産業「体験交流型観光」として、観光交流人口100万人の目標を達成すべく、平成20年に周防大島町体験交流型観光推進協議会を設立し、体験型教育旅行の誘致・推進を開始。

取組内容

- 平成20年から主に中高生の修学旅行の誘致を開始。
- 農業・漁業の担い手にホームステイの受入家庭及び体験のインストラクターになってもらい、みかん栽培やいわし網漁など、古くからの田舎の営みそのままを都市部の生徒が体験。

活動の効果

- 都市との地域間交流、若者との世代間交流を通じて、担い手には自身の暮らしに対する誇りや喜びを改めて感じることができる機会となり、元気の源や生きがいづくりに繋がっている。
- 体験学習により、生徒自らが地方における農業・漁業の現状や厳しさを実感し、自身で収穫・調理した食事を摂ることで、食育効果や共同活動で培われるコミュニケーション能力向上の効果が図られている。

応募団体からのアピール・メッセージ

過度なおもてなしをせず、偽りのない農山漁村の暮らしそのものを提供し、地元住民との“交流”を目的とし、若者に周防大島町を知ってもらう絶好の機会と捉え、リピーターや情報発信者に発展していくよう、体験交流を通じて地域の魅力をPRしていきたい。

新鮮田布施

～未利用魚加工で魚価低迷に倍返し!!～



グループにより加工された商品



移動販売の様子

経緯

- 魚価の低迷、経費の高騰によりベテラン漁業者でも経営が難しい状況下、新規漁業就業者をはじめとする独立型漁業者が、経営の安定化を図るうえで、新たな取り組みが必須であった。
- 「自立」「新鮮・安心・安全」「安価」「実力主義」をモットーに、平成17年、協業体「新鮮田布施」を設立。

取組内容

- 未利用魚の有効活用と、付加価値の向上のため、鮮魚・フィレ・ミンチ・干物・漬け焼き、フライの半製品(揚げる手前までの行程)など商品開発に取り組む。
- 補助事業と構成員からの負担により加工施設を整備。
- 委託販売先や直売など新たな販路の開拓により、構成員の経営安定と地元消費の拡大に寄与。

活動の効果

- 加工施設の維持管理をポリシーの1つ「自立」に則り、構成員の販売利益から維持管理することにより、施設に対する意識が向上し、施設の保全が保たれている。
- 未利用魚の有効活用等により、水揚量向上、地産地消、漁業経営の安定に貢献。
- 夫婦で取り組む事により男女共同参画を実現するとともに、新たな指導者の育成と移住・定住も含めた新規漁業就業者の増加に繋がっている。

応募団体からのアピール・メッセージ

周辺地域のグループとも連携し、新たな取組を検討しています。これからも新規漁業者の確保並びにグループへの新規加入を継続し、地域を活性化していきます。

たぶせ
山口県立田布施農工高等学校

～農工から発信！子どもたちのat home(アットホーム)望幸隊～



配食活動しながら、子どもと交流



焼き立てのat home lunch(210食)を提供

経緯

- 東日本大震災をきっかけに、高校生と地域住民で防災食の開発に取り組む。
- 「幸せを望んでもらえる活動」との思いから高校生による『望幸隊(ぼうさいたい)』を結成。
- 新型コロナウイルスによる、家計が急変した家庭への子ども食堂支援サポートをスタート。

取組内容

- 高齢化が進む周防大島町と連携し、防災訓練を実施するとともに、地域住民と情報交換の場を設けることにより参加者が増加。
- アレルギーに対応したノングルテン米粉パンを始めとした防災食の開発。
- 望幸隊としての経験を生かし、「子どもたちの心を支えていくこと」を目標とした子ども食堂での配食や食育活動を実施し、支援を結ぶネットワークを構築。

活動の効果

- 子ども食堂の配食ボランティアに参加し、要望が多く寄せられた校内や地域食材の野菜をふんだんに使用したメニュー開発・配食により、利用者の増加と地域が活性化。
- 休校中、一人で留守番をしている子どもたちのための食育イベントが好影響を生み、一緒に活動する地域ボランティアが数名から20名以上に増加。不安な気持ちの子どもたちの心に寄り添うことで、引っ込み思案だった小学生が、調理体験を全校朝礼で発表するなど前向きな姿に変わり、小学校の校長先生から感謝の言葉をいただいた。

応募団体からのアピール・メッセージ

県内初の高校生主体の子ども食堂の登録と民生委員や教育委員会等と連携した「出張！子ども食堂！」の結成を目標とし、支援を必要とする子どもたちが、人との繋がりを感じ、一緒に笑顔になれる活動を展開していきます。

やない
柳井さつき

～野菜っておもしろい！食育で地域活性化！～



山口県農林水産物需要拡大協議会大使就任



親子対象の食育講座の様子

経緯

- 「レタスは軽い方が甘い」、「大根のひげ根は縦一列に生える」など、毎日炊事していても知らない知識を得て、「広めるのが自身の使命」と感じた。
- 専業主婦だった2005年に子育ても一段落し、「野菜ソムリエ初級」を取得したことを契機に2008年に中級、2016年に上級資格を取得。

取組内容

- 生産者と生活者の架け橋として、野菜・果物の目利き、栄養、素材に合わせた調理法など毎日の食生活に欠かせない野菜・果物の知識を、メディア、料理教室・セミナー講師、食育活動、コラム執筆、レシピ開発、青果販売などにより、幅広く発信。
- 2018年に農産物ブランディングチームを発足。これまでの実績と経験、ネットワークを生かし、売れる農作物づくりを提案。

活動の効果

- 山口県内全域で、各種料理コンテストや新商品開発における審査委員、広報誌レシピ、食育、栄養分野を講演する中、野菜の摂取拡大を通じた県内の健康増進対策、野菜嫌い対策を積極的に推進。
- 農林水産省ボランティアプランナー、山口県農林水産物需要拡大協議会認定「ぶちうまアンバサダー」を通じて、県内農産物の消費拡大や6次産業化の推進に寄与。

応募団体(者)からのアピール・メッセージ

野菜ソムリエの使命である、生産者と生活者の架け橋となるため、農産物のブランディング、メディア出演、講師依頼、レシピ開発、コラム執筆など幅広く活動を実施していきます。

<https://satsuki-cafe.com/>

山口県熊毛郡平生町 Tel:080-1923-2241

きよ
農事組合法人 木与なぎさファーム

～江戸からの継承、伊能忠敬の恵みを今に！～



地域の有志で行う農地・道路・水路清掃活動



棚田から見る日本海の風景

経緯

- 江戸時代、「伊能忠敬」による全国測量の際に、取水口・水路・排水口等の測量と設計が行われ、これにより、豊かな棚田となった。
- 平成22年「木与集落の明日の農業を考える会」立ち上げ、その後、集落の農地を守ることを第一に考え、平成23年「農事組合法人木与なぎさファーム」を設立。

取組内容

- 集落一体となった農業生産活動により、集落の農地保全。
- 棚田法面へのシバザクラの植栽、集落内水路への鯉の放流、花壇の整備等、集落の景観形成。
- 棚田で田植え体験を実施し、地域交流と地域のPRを通じ、地域の活性化に努めている。

活動の効果

- 機械の共同化、無人ヘリによる共同防除体制の確立、農地外周への獣害防止柵の設置等、集落一体となった活動が実施でき、地域の農地保全が可能となった。
- 農業者、非農業者、女性、若者等を含めたコミュニケーションの場の創設。
- 木与集落の棚田で開催した「田植え体験」では町外の方の参加もあり、新たな交流が生まれるとともに、地域の活性化が図れた。

応募団体からのアピール・メッセージ

棚田から見る夕日と美しい農村集落の景観は、木与の宝です。
「やまぐち棚田20選」にも選定されている木与の棚田を後世に引き継ぐため法人を中心に農地保全に取り組んでいます。

阿武郡阿武町木与667 Tel:08388-2-2512